

平成24年度第5回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【行政評価検証専門部会】

日 時	平成24年10月25日（木）午後1時～4時
場 所	北上市市民交流プラザ
出席者	(1) 委員 3名 佐藤徹部会長、岩淵公二委員、和田明子委員__（高樋さち子委員、西出順郎委員は欠席） (2) 事務局 (3) 担当部課職員
傍聴者	なし

1 議題

- (1) 各委員の評価内容の確認（案件1・2）
- (2) 専門部会の評価内容協議（案件1・3・4）

	対象案件
1	施策及び事務事業 ごみの発生抑制について
2	重要課題 九年橋大規模改修事業の事前評価について
3	施策及び事務事業 活気ある商工業の振興について
4	施策及び事務事業 農産品の高付加価値化と新たな流通の開拓について

2 会議の概要及び主な意見等

案件1及び2について各委員の記載した評価内容の確認と担当部との意見交換を行い、その後、案件3、4及び1について専門部会としての評価シートとりまとめを行った。

(1) ごみの発生抑制について

[主な意見等]

- ・「3R」というのが出てくるが、「市民が取り組む3R」「事業者が取り組む3R」「協働で取り組んでいく3R」があり得る。その姿を具体的に、明確に記述してあると良い。
- ・評価指標は、総量表記だと人口の増減、事業所の増減による変化が把握できないので、人口や世帯数、事業所数1単位当たりということで、市民一人ひとり、各事業所がどれくらいごみ抑制のために行動されているのかを指標とすることが

本当は適切ではないかと思う。

- ・「リサイクル率」「家庭系ごみの一人一日あたりの排出量」の方が本来的な指標として適切。総量として減らすことはやはり大切なので、総量も引き続き参考指標とするべき。さらには、事業者における発生抑制の指標があるとよい。

- ・統計データに基づき定量分析をして、次年度以降の数値目標などを使って説明をするほうがよい。

- ・実績値をもたらした要因の考察が不十分。次年度への改善につながる分析取り組みが必要。

- ・補助制度廃止によりどの程度のごみ排出量が増えたのか、概算レベルでも分析されていない。

- ・要因考察から改善策の検討にあたり、より具体的な課題を抽出する努力が必要と思われる。

- ・「県主導によるレジ袋の有料化推進」という文言が出てくるのは市の主体性が感じられない。市の独自施策をどのように考えているのか記述すべきである。無料レジ袋を配布している企業に課税する条例を検討することも、可能性としてはあり得る。市民側へのアプローチとしてはマイバック利用者に何らかの特典を与える制度を作る、というのは市の取り組みとして適切であるように思う。

- ・事務事業「ごみ減量化・リサイクル推進事業」の意図のところに「経費節減」と記載されていた。施策や基本施策、その上の政策といった体系からすると、行政側の都合である経費節減は繋がって来ないので疑問が残る。

- ・ごみの分野というのは他の施策と比較してデータが取りやすいので、豊富なデータを取ったうえでしっかりと要因分析をして課題を出し、課題解決するための方針、あるいは事業を展開されることを期待する。

- ・公衆衛生指導員に依存し過ぎではないか。また、有料化による影響がどの程度あるかを検証したうえで対策を立てた方がよいのではないか

- ・事務事業「ごみ減量化・リサイクル推進事業」は、啓発事業を実施しているということだが、北上市としての特色が見られず、他の自治体と何ら変わりが無い。集合住宅に問題があることが明確になっているのだから、そこに絞り込んだ啓発活動をするとうまいのではないか。

- ・担当者の憶測を記述するのではなく、アンケート調査等で評価したうえで評価結果を記述すべきである。

- ・住民登録をしていない人への対応は早急に方針を決めて実施すべき。フリーライダーを減少することが公平な市民生活を維持できることである。

- ・外部に施策評価シートが示された場合、ここからしか読み取ることができないが、このシートからは北上市の主体性が読み取りづらい。読み手のことを考えて、真意が伝わるよう工夫してほしい。

(2) 九年橋大規模改修事業の事前評価について

[主な意見等]

- ・耐荷性や耐震性のところで説明不足の点は残る。せっかくお金をかけて工事をしても耐荷性や耐震性で向上が図られないということであれば、事業の必要性に疑問を持つ市民もいるだろう。そういう人たちに対する丁寧な説明は欲しい。
- ・階層分析法を使って代替案の選択を客観的にしようとしたことは画期的な取り組みとして高く評価するが、評価者として行政関係者だけだったことから、納税者、受益者、住民の視点が弱いと言える。住民が同じ枠組みの中で評価した場合でも、同じ評価を下すだろうという確証は得られない。
- ・政治的判断について政策評価委員会がどこまで踏み込めるか。政策評価委員会は外部の人間なので、評価の方法自体が妥当かどうか、手段の選択が妥当かどうかをメインに評価するべきではないか。

(3) 活気ある商工業の振興について

[主な意見等]

- ・「適切」と評価すると、100%これでよいと受け止められる。「不適切」と評価すると、全くダメだと受け止められる。全くダメかということ、そうではない。総花的でどこにでもある内容だからもっと掘り下げろということで、中身全体を否定しているのではない。
- ・「要因考察や課題の把握は適切か」については、要因考察を抜本的に見直してほしいということで、実施していることが全てダメということではない。
- ・「要因考察や課題の考察」というのは最も大切なところであり、あえて厳しい評価としてもいいかと思う。

(4) 農産品の高付加価値化と新たな流通の開拓について

[主な意見等]

- ・「きたかみ牛」の市内における認知度も必要だろうと思う。しかし、全国的に「米沢牛」や「前沢牛」は知られているが、「きたかみ牛」はまだ知られていない。知られていなければ、食べに来る人もいない。どちらの取り組みも必要だろう。
- ・供給量がないとブランド化は図れない。市内でPRして生産量を増やすと言っても、販売先がないと生産量は増えない。生産者のいる地域で消費拡大することが、生産者のモチベーションアップに繋がることはあると思う。しかし、それを何らかの成果に直接結び付けることは難しいだろう。よく話を聞けば納得できる部分もあるが、農業の振興にはなりにくい。